

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600750		
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	大分県豊後大野市緒方町馬背畑1875番地		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;jigvosyoCd=4472600750-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;jigvosyoCd=4472600750-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212		
訪問調査日	平成24年11月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな森林の中で散歩を楽しんだり、デイサービスに来る人たちと交流を持ったりと、のんびりとゆっくり楽しく生活できるように支援しています。敷地内の畑には季節の花や野菜を入居者と一緒に植え、収穫した野菜は料理に使い、入居者と職員が同じ食卓を囲み食事を楽しんでいます。運営推進会議や夜間避難訓練などをとおして、地域の人達と関係づくりに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風情豊かな山間に位置する平屋建て2ユニットの施設で、敷地内にはデイサービスセンターも在り、法人の地域性を備えた取り組みにも着目しています。菜園では利用者の力量を生かした野菜作り、また、玄關脇のテーブルはくつろぎの空間として活用されています。職員のケアの向上とチーム力を高める支援、利用者・家族との信頼関係を培うコミュニケーション力の充実を図りながら、利用者一人ひとりの「尊重」と寄り添い合える日常を大切に、地域間交流にも努めています。生活リハビリ(体操・身体を動かすゲーム・手作業等)に取り組んでおり、日常的な身心の機能訓練が継続的に行われています。集団の中で各々が楽しめる食卓の配慮や嗜好、栄養バランスを考慮した献立に留意しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者一人一人の普通の生活や権利を守ります」「人が見ている時も見ていない時もいつも変わらない対応」を基本理念とし、職員会議で改めて話し合う場を設け考える事で理念の共有・実践へとつなげています	理念は言葉だけでなく、実践を通して引き継がれるものと理解し、管理者と職員は、両輪とも言えるその理念が示す原点に常に立ち返りながら、利用者の支援に日々努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる祭り等の行事に積極的に参加し、地域の人々との交流ができるように努めている。また、学生ボランティアをチラシで募集し、受入れを行っている。	事業所は、地域との交流を大切に考えており、行事の参加や、保育園児との交流、隣接する広場で行う地域の方のゲートボールに参加したり、積極的な繋がりを支援しています。また、事業所の情報発信として「ふれんど通信」を3地区の各戸へ配布し、その中で認知症の啓発活動や相談事を受け付けるなど、地域交流に活かされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報紙を利用して認知症で悩みを持っている人へ相談を受けつけている。また、地域の人と交流があった時に相談や入居者とのふれあいができるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では年間の議題を決め、会議では意見交換が行われています。会議で出された意見については職員間でも検討し、サービスの向上に努めています。	運営推進会議では、事業所の情報提供と参加者から出されたテーマを基に、会議が進められており活性化が図られています。話題の中から出された意見は、前向きにとらえサービスの向上、職員の質の確保に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では現状報告をし、助言やアドバイスを受けている。スプリンクラーを設置した時は初期の段階から市と協議しながら行なった。	運営推進会議の場を利用して連携を取っていますが、今後の課題として行政からの積極的な関わりを検討して行く必要があります。	事業所から相談やアドバイスを求め積極的な働き掛けを行っていますが、研修会や勉強会の開催、事業所の内部研修に市職員の講師を依頼したり、双方向的な関係作りを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援できるように努めています。見守りのケアを重視し、感染症等の時は主治医の指示に従って支援している。本人・家族にも説明し、同意を得ている。	職員は、研修等を通じて、身体拘束及び虐待の弊害について理解をしており、更に精神的(言葉使い、態度等)な部分にも注意を払っています。ヒヤリ・ハット会議では、些細なことでも、気付いたことは検討し、共有することで利用者の尊厳に配慮した支援が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んだことを気をつけて取り組んでいる。職員間でも入居者の接し方を互いに確認しあい、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居している利用者の中には制度を利用する人はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、職員間で情報を共有している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の不安や疑問点を聞き、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や面会時に要望を聞く機会を設け、運営に反映させられるよう努めています。また職員間では連絡ノート等を活用し、情報の共有を行っている	面会時や電話連絡の際に、家族の要望、意見を聞くようにしています。ケアに対する声が多く見られ運営に反映させており、家族アンケートを取ることで、家族の本音が出せる機会作りに努めています。	各家族に広報誌を送っていますが、一緒に個人の日常の写真、暮らしぶりを「たより」にして報告することで、家族が期待する情報提供が出来ます。その中で家族アンケートを参考に、家族の思いに添えるよう日頃のやりとりや対応の積み重ねで、信頼関係を築き深めることを期待します。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の状況に応じ管理者・職員の意見を聞き、協議を行いながら入居者・職員にとってより良い環境を整えて行けるよう反映させている。家族会がある時には家族のみで話をする機会をもうけた。	会議やミーティング、休憩中の日頃の会話の中から、職員の思いを把握するようにしており、管理者は職員とのコミュニケーションを大切にすると共に、職員の意欲の向上やサービスの質の確保に繋げる努力をしています。また、職員の意見から浴室の改善をした事例もあります。	全職員が生き生きと働けるよう、十分な聞き取りのための個人面談や、職員のアンケートを実施することで、サービスの向上に繋げることを期待します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営状況に関しては、毎月事業報告を行い会議録等で現状報告を行い把握してもらっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てて職員のスキルアップに役立っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合ったグループホームへ連絡を取り、交流する機会を作り始めたところです。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅を訪問し、生活状況を把握している。希望があれば、事前に施設見学をしていただき、生活の様子を見ることで入所の不安感を減らすよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が置かれている状況や、サービスの利用状況、思いを聞き、家族との関係性を築きながら、どんな対応が出来るか話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人および家族が求めているものを理解し、入所判定会議で話し合いながら入所や他のサービス利用も含め話し合っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	草取り・掃除・調理等、少しでもできる人には手伝って頂き、その都度感謝の言葉がけを行い、自分も人の役に立っていることを実感できるよう援助している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や状態等を家族に新聞や写真を送り、職員と家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。毎年9月に家族会を開催し、運営推進会議で家族から要望のあった手作り団子汁を作り、同じテーブルで食べた。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サロンへ出向いたり、馴染みの友人・知人の方々との交流を継続している。また、電話連絡を取りもったり、行きつけの美容院や、家の近くまでドライブに行き馴染みの関係が継続出来るよう支援しています。	家族や知人、友人の訪問、ゲートボール仲間との交流、「ふれあいサロン」での馴染みの人々との会話、行き馴れた美容院や家族の協力を得ての墓参り等、馴染みの関係が途切れないよう、多彩な形で支援を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり孤独にならないよう声かけをして、皆が仲良く過ごせるようにレクリエーションで、交流を深めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族と連絡を取り合い、退去後の状況や相談等を随時受け付けて、サービス終了後も関係継続を計っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族とのアンケートの実施を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。自分から意思表示できない人については表情やしぐさで思いを捉えケアに活かしている。	利用者の思いは日々変わっています。会話や表情から利用者の思いを把握したり、職員は利用者同士の会話に耳を傾け、全ての利用者が生き生きと暮らせるよう、家族との関わりを密にし思いを汲み取る努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの場所、暮らし方を本人や家族、関係者から聞いた内容を職員が随時記入できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックと入浴時の全身確認によって、心身の状態の把握を行っている。現在出来ることを、今後も継続していけるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりが、日頃の関わりの中で、思いや意見をまとめ、月1回職員全員でモニタリングをして介護計画の見直しに活かしている。	利用者の、毎日の状態を記録し、家族、医師等の関係者の意見を参考に、月1回モニタリングで話し合い、一人ひとりの状態に即したケアプランを作成しており、状態の変化にも見直しを行うことで柔軟に対応しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄等身体状況及び、日々の暮らしの様子等をノートやケース記録に記入し、職員全員での毎月のモニタリングで、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮し受診等の支援は柔軟に対応し、色々なケースに個別に対応し一番いい方法を選んで支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出身地サロンとの交流をしている。又、地元消防団との避難訓練を9/23日に実施しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関に受診している。通院は基本的には家族が付き添うが、対応が難しい場合には医療機関と調整しながら往診なども行っている。	利用者や家族の意向に添った医療機関への受診が行われており、家族の同行を基本としています。常に身体状態の把握に努め、家族との連携の基で、受診経過等の記録は整理され職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中での気づきや体調変化等が見られれば看護師に相談するようにし、受診など早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、既往歴や日常生活の様子他情報提供を行う。また速やかな治療及び早期に退院でき、施設復帰後すぐに生活に馴染めるように適宜担当医・看護師・家族と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月1回話し合いの場を設け、現在職員間の意思統一を図りながら、事業所の方針について協議中。	利用者や家族には、施設における重度化や終末期ケアへの支援体制について、契約初期に説明が行われています。看取り支援については、全職員で前進的な検討に努めています。	施設状況や重度化における終末期支援の現状の把握を行う中で、看取りへの取り組みの姿勢・体制づくりについて、協力医療機関との連携、職員のチーム介護への意思確認等、全職員間での賢明な協議に期待が持たれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応について、マニュアルを整備している。地域住民・職員・入居者・地区の消防団員と救急法の講習会に参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団との夜間避難訓練を実施し、近隣住民等に対しては運営推進会議で協力を呼びかけている。	地域の消防団との連携が図られる中で、夜間の火災による総合避難訓練を実施するなど、研修や訓練を通して、危機感を持ちながら職員が一体となり安全対策に取り組んでいる様子が伺えます。備品管理も行われています。	夜間訓練から見えた課題や問題点について、協議・検討が図られており、改善に向けた取り組みに、大きな期待が持たれます。さらに、日常生活(入浴中等)における避難体制の見つめ直しを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内の研修により職員の意思向上を図ると共に、他の人に聞かれたくない様な事を声かけする際には、状況に応じて個別に声かけを行ったり、周囲に気付かれないような対応等を行うよう心掛けている。	個性の尊重とその人らしい生き方を大切に「尊厳」を持って暮らせるように、各々の職員力の向上とチーム力アップに取り組んでいます。個々の利用者の思いを全職員で共有する中で、利用者に寄り添える支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から希望(食事や外出等について)聞く場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、日常的には家庭で過ごすようにゆっくりしたり、時には町内のデイサービスや保育園と交流している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマと日常着は区別し、外出や行事の際も自分で服装を選び、おしゃれをして頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事が一緒にできるように雰囲気作りも大切にしている。片付けや食事・おやつ作りなどを利用者と一緒にできるように声かけしながら支援している。	栄養バランスに着目した献立であり、季節の産物を食材に用い、食べやすさ(食感等)への工夫も考慮されています。彩り良い料理を、職員と共に食する和やかな雰囲気が伺えます。行事食(お誕生会・記念日)にも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態に合わせて食べやすいようにし、食事他水分量が確保できているか残量を記録するようにしている。体調不良で十分な食事が摂取できていない方には、主治医と相談の上高カロリー補助食品を出してもらっている。これだけに頼らず、嗜好品や食べやすいもの等で工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後歯磨きの声かけを行い、能力に応じて職員が見守りや一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック票で把握している。トイレで排泄することを大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	排泄チェック表を活用する中で、一人ひとりへの行動の気づき(態度・表情)に努めながら、利用者に合わせた声かけや誘導が行われる中で、状態の自律に努めています。身心の健全に繋がる便秘解消にも取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動を働きかけることで自然排便ができるよう取り組み、排便状況に応じ薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に気をつけて入浴をしている。湯船につかり、会話をしながらゆっくりくつろげる入浴ができるよう努めている。	一人ひとりの利用者の習慣を職員間で共有しており、臨機応変な支援に取り組んでいます。清潔保持への配慮や安全な環境設定に気配りしながら、安心してくつろげる好ましい雰囲気づくりに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、ゆっくりしたい時は部屋で休んでもらったり本人の体調や状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全職員に分かるように徹底している。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備(野菜の切込み)片づけなど出来ることを依頼し、感謝の言葉を伝えている。団子汁作りやおやつ作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらう心身の活性に繋がるように散歩、買物、ドライブに出かけている。地域の行事参加等を利用者と相談しながら行っている。	一人ひとりの思いに寄り添い、意向を引き出せる(把握)関係づくりに努める中で、個々の気分転換への営みを大切に、日常の援助に取り組んでいます。法人の特性を活用した交流や、ドライブ等の外出支援も行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時は、本人自らが電話や手紙でお礼をするように支援している。入居者に家族会の案内文章を宛名書きと一言書いてもらい(家族に)発送した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り付けをしたり、手作りカレンダーを作っている。廊下に季節ごとの写真を貼っている。	光彩豊かな居間は、利用者と職員との共同作品(スタンドグラス等)や写真で装飾されています。また、菜園で育つ野菜が見られるなど、四季折々の風情の味わい(楽しみ)を、全職員でサポートしている暮らしぶりが伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節に応じてホールには、椅子やソファ、畳、こたつ等を置いて落ち着いてくつろげる空間を作っている。玄関にベンチを置き、一人でほっとできる居場所作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや使い慣れた日用品を居室に持ち込めるように配慮している。位牌を持って来られ毎日お茶をお供えし、花を飾り手をあわせる方もいて、その人が安心できるようにしている。	季節ごとの衣服の交換は家族の協力を得るなど、利用者を中心に家族との連携を大切に、三者間の交流による居室づくりに携わる職員の姿勢が見受けられます。居室での入居者同士の雑談も見られるようです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレなどに、手すりや滑りどめマットを設置し安全に配慮している。		